

講座名（専門科目名）	循環器疾患病態解明・治療開発学連携分野	教授氏名	大津 欣也、藤田 知之
学生への指導方針	循環器疾患克服のために、臨床研究、大規模コホート研究、トランスレーショナルリサーチ、基礎研究を通じ、内科・外科両面から指導を行う。		
学生に対する要望	情熱を持って、循環器医療の進歩に寄与したいと希望する学生を希望する。		
問合せ先	(Tel) 06-6170-1070 (Email) tfujita@ncvc.go.jp	担当者	藤田 知之
その他出願にあたっての注意事項等			

循環器疾患は、我が国における主な死亡原因で、医科診療医療費に占める割合は最多となっている。また、今後高齢化社会が進む中で、その割合は増加していくことが予測され、循環器疾患の病態解明、治療開発を行う研究者の育成、研究の推進は喫緊の課題となっている。一方で、循環器疾患は分子や細胞レベルでの複雑な解析、治療介入方法の検討が必要であること、また実際の臨床現場での応用を行うための手続き、修練などが求められている。そのような基礎研究、臨床研究までを一貫して行うことができる研究組織として国立循環器病研究センターがある。

国立循環器病研究センターは、1977年に我が国で2番目のナショナルセンターとして、国民の健康を支えるための循環器疾患の究明、制圧を目的として開設された。その後2010年に独立行政法人に移行、2015年に国立研究開発法人に移行され、これまでに国内外に誇る循環器疾患の研究、治療、人材育成を行ってきた。大阪大学医学系研究科とは、開設当初から深い繋がりがあり、共同研究、人材交流、学生教育を通して交流が続いてきた。

「循環器疾患病態解明・治療開発学連携分野」は、大阪大学大学院医学系研究科と、国立循環器病研究センターとの間で、循環器疾患の病態解明、治療開発の分野において設置された連携大学院で、同分野での基礎研究から診療応用までを行うことができる専門分野の人材育成を目指す。特に、循環器内科学では、ゲノム解析、オートファジー、ミトコンドリアなどに着目した心不全の分子病態解明研究、心血管疾患の疫学を明らかにすることを目指す研究、都市コホートを対象とした吹田研究やわが国全体を対象とした循環器疾患診療事態調査（JROAD）などの疫学研究、また大阪大学医学部附属病院で行われてきた新規診断法、内科的治療法の有効性の検討などの臨床研究を行う。また、心臓血管外科学では、低分子化合物や細胞治療による心筋再生医療の基礎研究から臨床研究や治験、臨床現場のニーズに即した新たな医療機器の開発、人工知能を利用した新たな循環器疾患治療開発を行う。